

リケンテクノス株式会社

2024年3月期
決算・経営概況説明会

2024年5月17日



RIKEN TECHNOS



目次

1.決算概要

2.セグメント別概況

3.中長期的取り組み



1.決算概要

1.決算概要

2.セグメント別概況

3.中長期的取り組み

2024年3月期 連結業績サマリー

| 1.決算概要



(単位：百万円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前期比	増減率	2024年3月期 業績予想(※)
売上高	123,497	125,739	2,242	1.8%	128,000
売上総利益	20,351	21,882	1,531	7.5%	-
営業利益	7,506	8,775	1,269	16.9%	7,600
経常利益	7,964	9,544	1,580	19.8%	7,800
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,557	6,880	2,323	51.0%	4,500
1株当たり当期純利益(円)	72.11	114.24	42.13	58.4%	71.14
ROS(%)	6.1	7.0	0.9	-	5.9

※期初予想

2024年3月期のナフサ価格：69,100円/KL、平均為替レート：140.55円/USD

- 販売数量の増加、価格改定期ずれによる売上増加および円安の影響もあり増収・増益
- 投資有価証券売却益（政策保有株式売却）を特別利益に19億円計上
- 3期連続で売上高および各段階利益が**過去最高**を更新

セグメント別売上高推移

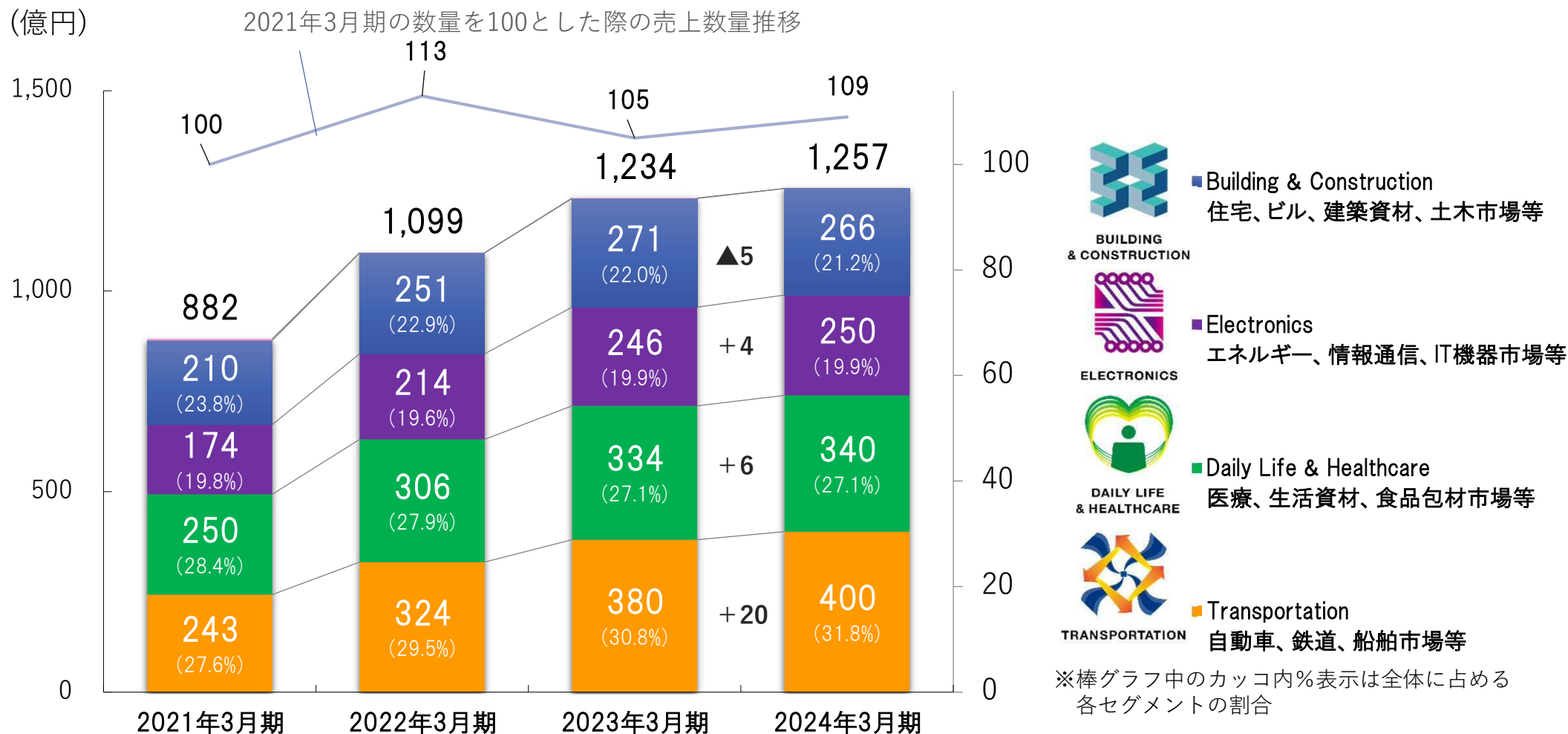
| 1.決算概要



2024年3月期 売上高

1,257億円

前期比 **22億円増 (1.8%増)**



地域別売上高推移

| 1.決算概要

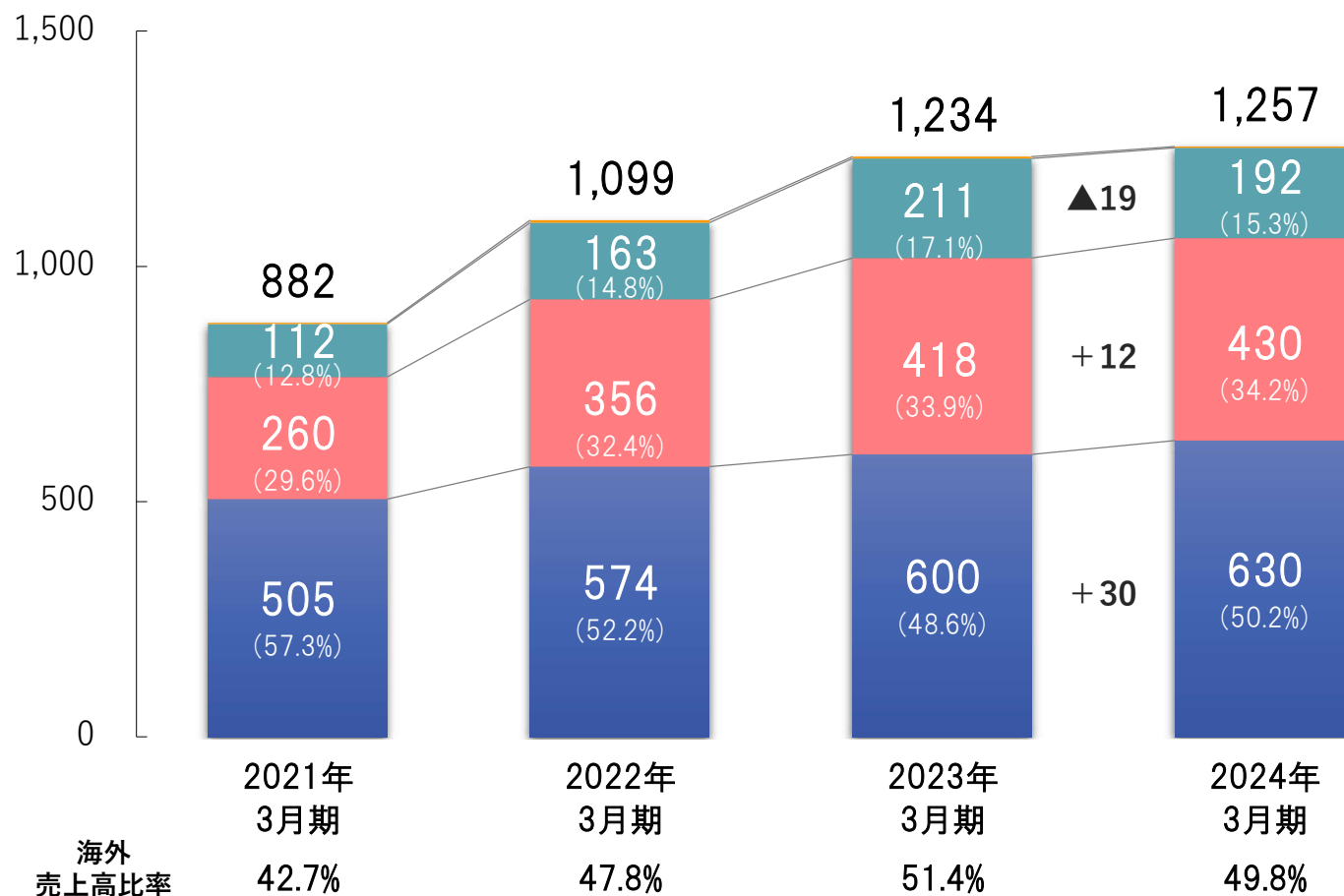


2024年3月期 売上高

1,257億円

前期比 22億円増 (1.8%増)

(億円)



- その他
- 北米
- アジア
- 日本

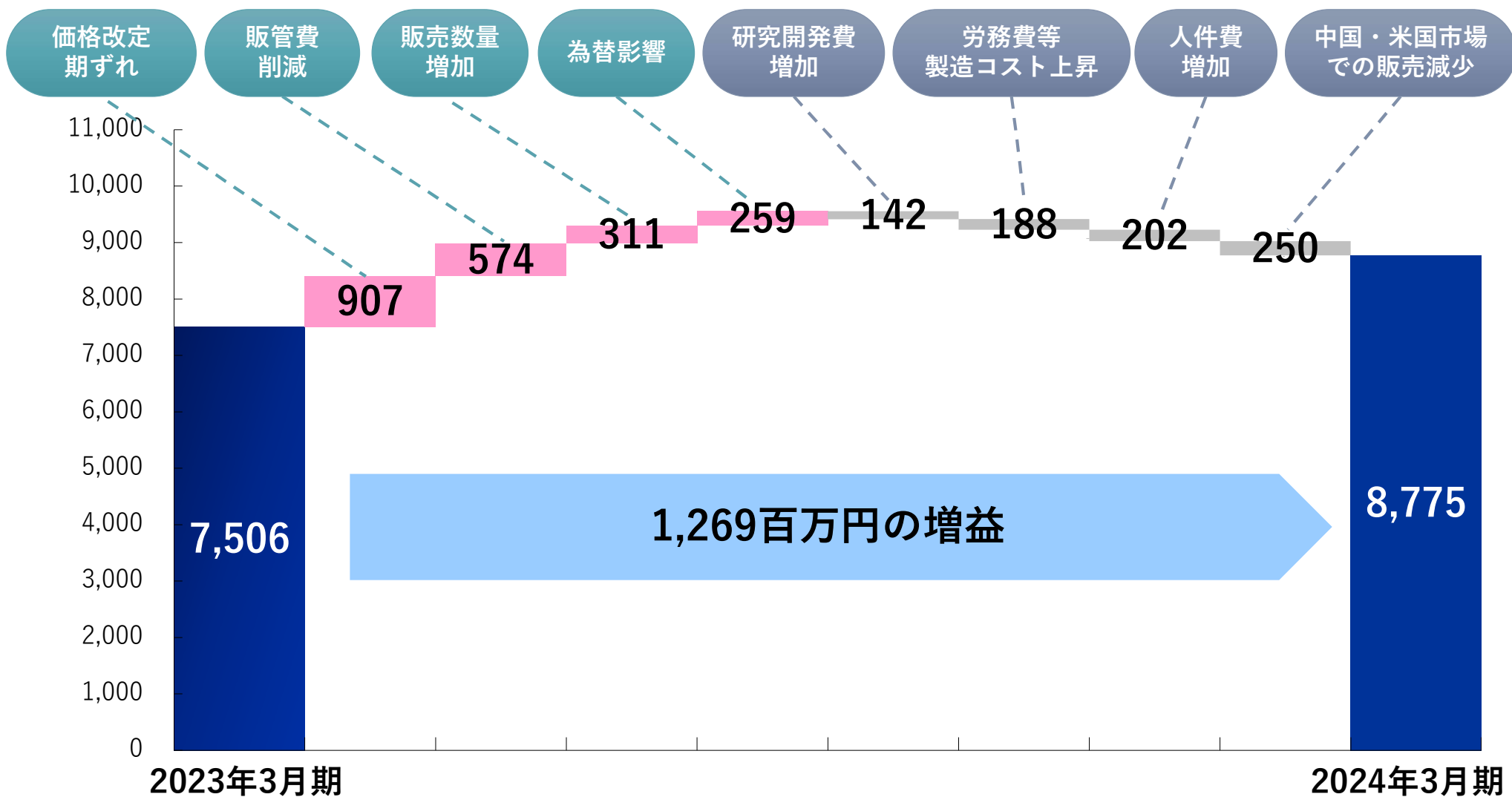
※棒グラフ中のカッコ内%表示は全体に占める各地域の割合

営業利益 前期比増減要因分析

| 1. 決算概要



(単位：百万円)

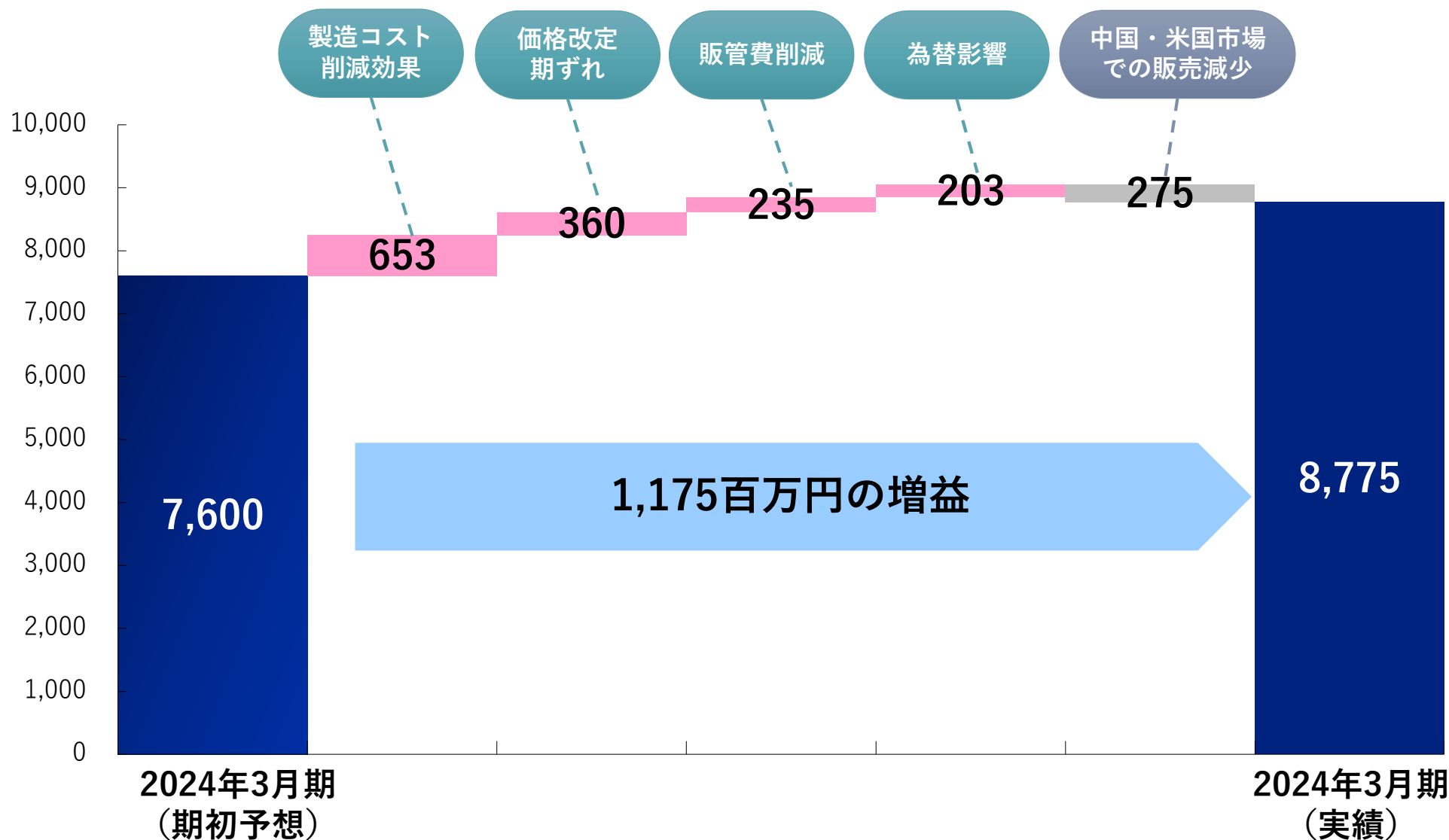


営業利益 予想比増減要因分析

| 1.決算概要



(単位：百万円)



連結貸借対照表

| 1. 決算概要



(単位：百万円)

	2023年 3月末	2024年 3月末	増減		2023年 3月末	2024年 3月末	増減
流動資産	71,667	71,820	153	負債	39,837	41,633	1,796
現金及び預金	23,481	21,879	▲1,602	流動負債	33,876	35,432	1,556
売上債権	28,495	29,929	1,434	固定負債	5,961	6,200	239
棚卸資産	18,734	19,376	642	純資産	72,165	74,017	1,852
その他	956	635	▲321	資本金	8,514	8,514	-
固定資産	40,334	43,829	3,495	資本剰余金	6,597	6,597	-
有形固定資産	27,077	28,475	1,398	利益剰余金	41,463	39,535	▲1,928
無形固定資産	2,286	2,247	▲39	その他有価証券評価差額金	4,904	6,526	1,622
投資有価証券	8,777	10,509	1,732	非支配株主持分	8,969	9,577	608
投資その他の資産	2,193	2,599	406	その他	1,718	3,268	1,550
資産合計	112,002	115,650	3,648	負債純資産合計	112,002	115,650	3,648

- 政策保有株式の売却により投資有価証券簿価は減少も、時価の上昇により残高としては増加
- 利益剰余金は自己株式の消却および配当の増加により減少
- 有利子負債は10,152百万円

連結キャッシュ・フロー計算書

1. 決算概要

(単位：百万円)



	2023年3月期	2024年3月期	増減
a.営業活動によるキャッシュ・フロー	8,524	10,753	2,229
b.投資活動によるキャッシュ・フロー	▲3,955	▲1,668	2,287
有形固定資産の取得	▲3,675	▲4,037	▲362
無形固定資産の取得	▲311	▲211	100
投資有価証券の売却収入	46	2,587	2,541
その他	▲15	▲7	8
c.フリー・キャッシュ・フロー (a+b)	4,569	9,084	4,515
d.財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,335	▲11,120	▲8,785
自己株式の取得	0	▲7,000	▲7,000
配当金の支払額	▲1,281	▲1,793	▲512
その他	▲1,054	▲2,326	▲1,272
e.現金及び現金同等物に係る換算差額	543	432	▲111
現金及び現金同等物の増減額 (c+d+e)	2,777	▲1,602	▲4,379
現金及び現金同等物の期末残高	23,454	21,852	▲1,602

- 設備投資額は増額するも投資有価証券の売却収入により投資活動によるキャッシュ・フローは減少
- 財務活動によるキャッシュ・フローは自己株式の取得および配当金の支払額により増加

2025年3月期 連結業績予想

| 1.決算概要



(単位：百万円)

	2024年 3月期 実績	2025年 3月期 業績予想	前期比	
			差額	伸び率
売上高	125,739	130,000	4,261	3.4%
営業利益	8,775	9,200	425	4.8%
経常利益	9,544	9,500	▲ 44	▲0.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,880	5,200	▲ 1,680	▲24.4%
1株当たり当期純利益(円)	114.24	95.54	▲ 18.70	▲16.4%
ROS(%)	7.0	7.1	0.1	-
ROE(%)	10.8	8.0	▲ 2.8	-

想定国産ナフサ価格：71,000円/KL、想定為替レート：140円/USD

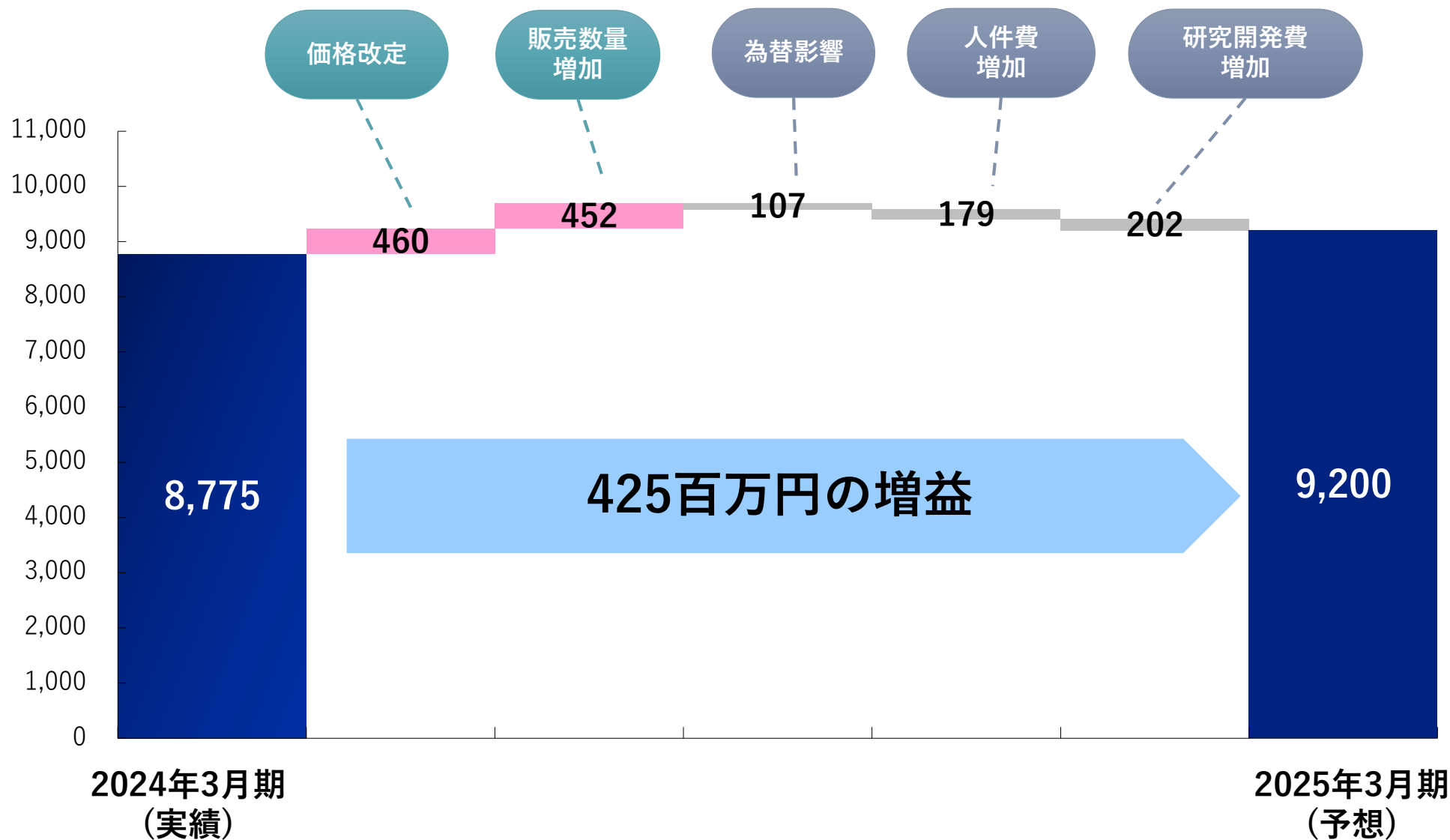
- 販売数量増加、価格改定により営業利益は増益、過去最高益更新を目指す
- 為替差益は見込まず、経常利益は前期並み

2025年3月期(予想)営業利益 増減要因分析 | 1.決算概要



RIKEN TECHNOS

(単位：百万円)





2.セグメント別概況

1.決算概要

2.セグメント別概況

3.中長期的取り組み



Transportation

トランスポーターション



ワイヤーハーネス

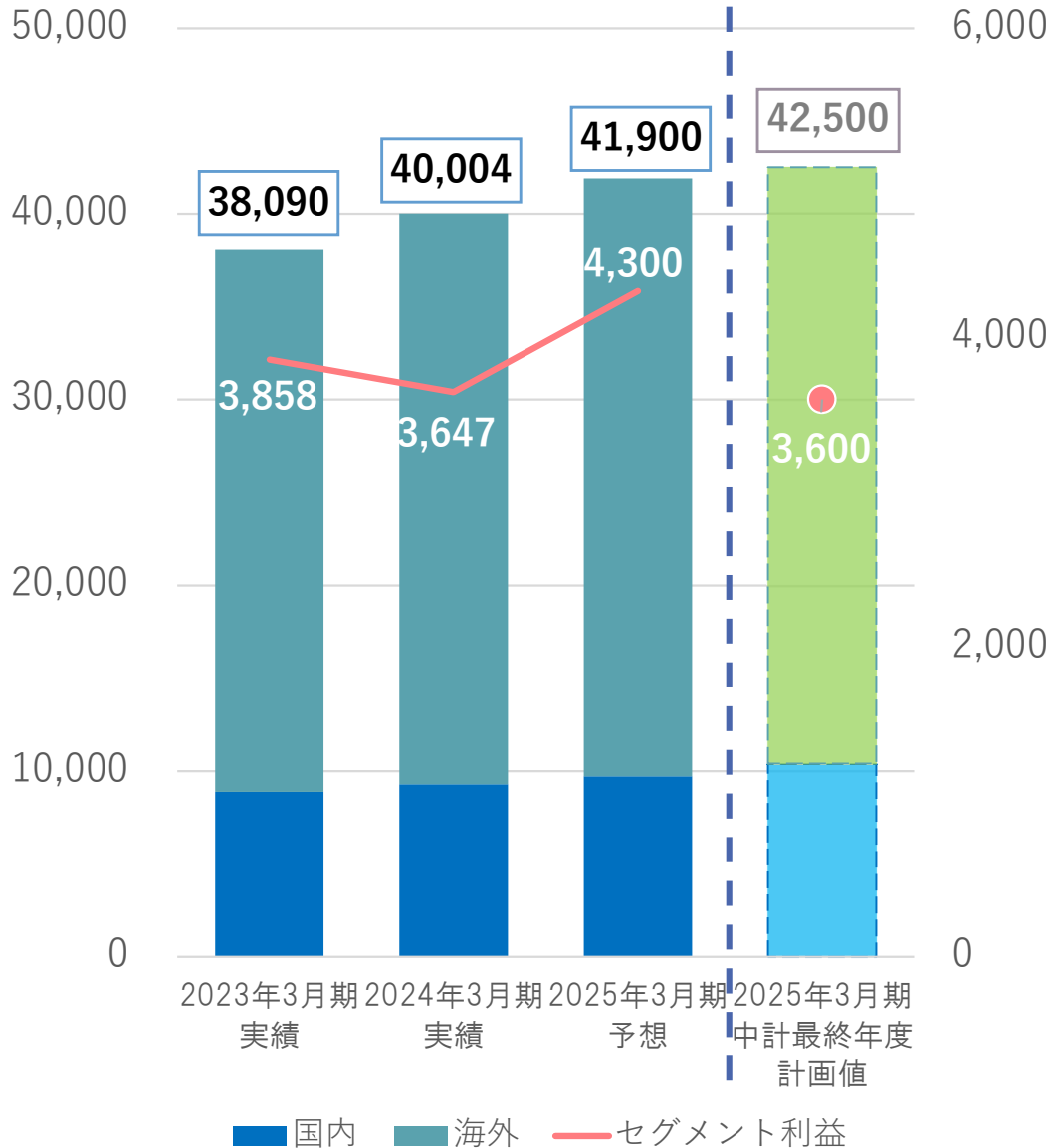


自動車用成形部材

Transportation



(単位：百万円)



2.セグメント別概況



**2024年3月期
通期実績**

1,914百万円 増収 (+5.0%)
△211百万円 減益 (△5.5%)

- 国内では、自動車市場が回復し、同市場へのエラストマーコンパウンドの販売が増加し、増収
- 海外では、中国市場における日系自動車の生産が減少したものの、北米・インド国の日系自動車生産の回復に伴い販売が増加し、増収
- セグメント利益は、中国の日系自動車生産低下に伴う販売の減少、高騰した一部原材料の価格転嫁遅れが影響し、減益

**2025年3月期
業績予想**

1,896百万円 増収 (+4.7%)
653百万円 増益 (+17.9%)

- 国内では、自動車市場はほぼ横這いだが、エラストマーコンパウンドを拡販し、増収
- 海外では、中国市場における日系自動車の生産減少の影響があるものの、北米・ASEAN・インド国の販売が増加し、増収
- セグメント利益は、販売数量が増加し、増益

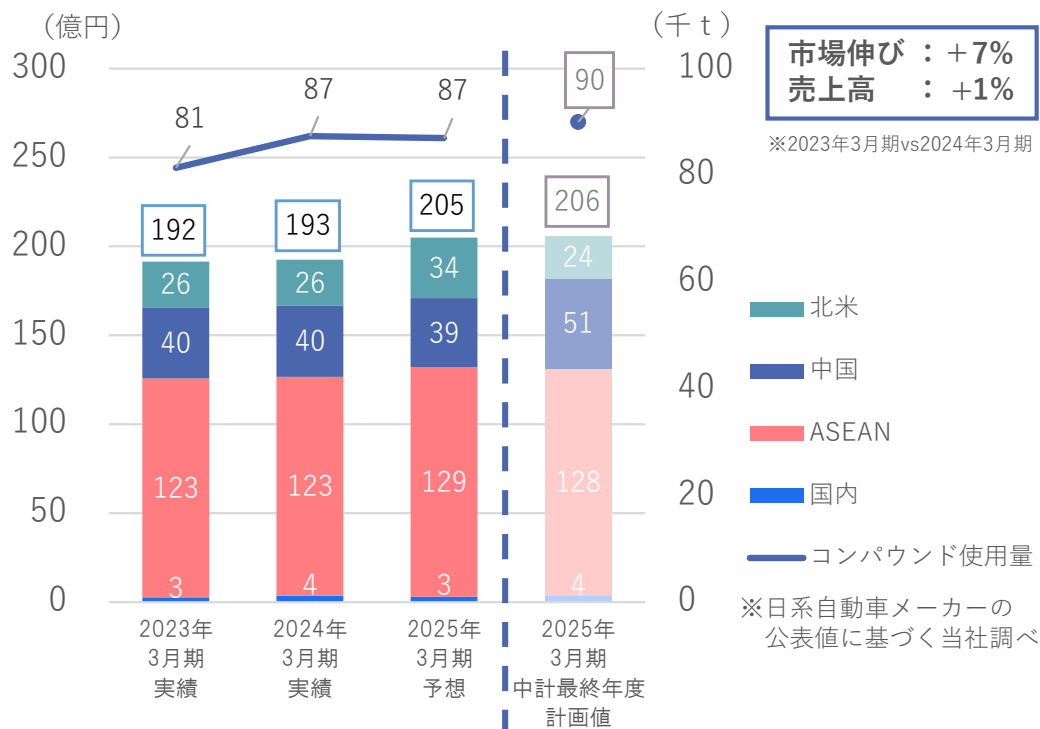
Transportation



TRANSPORTATION

重点分野① ワイヤーハーネス

日系W/Hメーカーコンパウンド使用量と当社W/H向けコンパウンド売上高



2024年3月期 通期実績

- 日系自動車生産の増加に伴い販売数量は増加したものの、原料価格低下により製品価格が低下し、売上高は前年並み

2025年3月期 通期施策

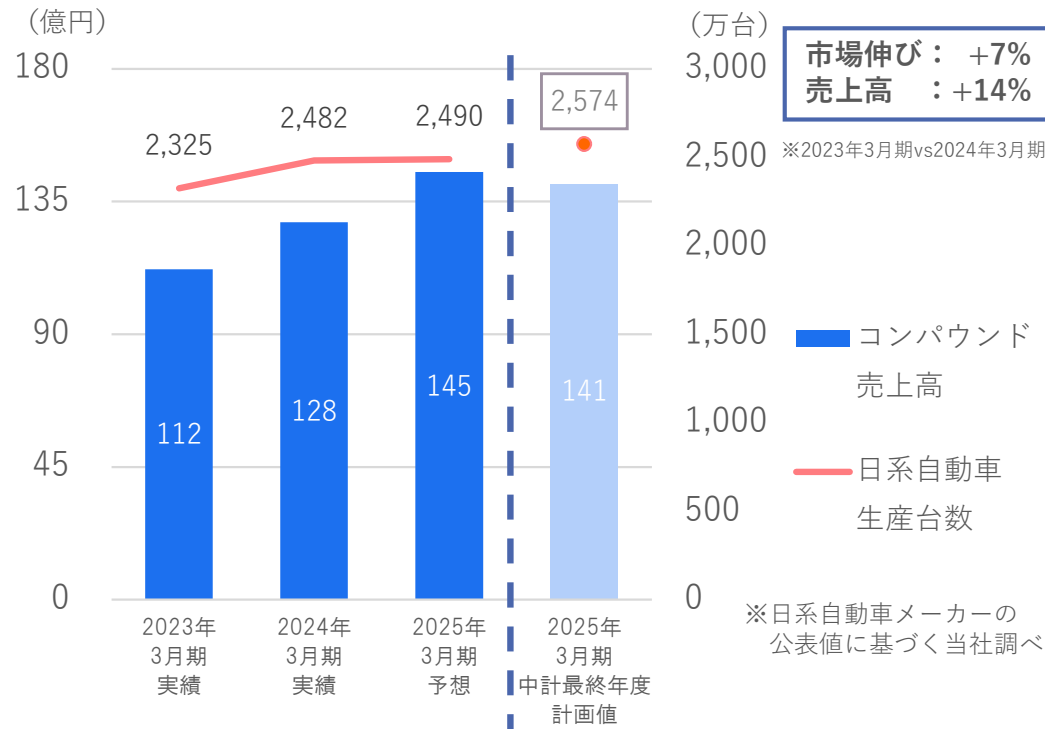
- 北米・インド国の自動車生産増加分を確実に捉え販売数量を増加
- 市場優位性のあるコンパウンドのグローバル顧客承認取得



2.セグメント別概況

重点分野② 自動車用成形部材

日系自動車生産台数と自動車用成形部材向けコンパウンド売上高



2024年3月期 通期実績

- 日系自動車生産の増加に伴う販売増加、シール・機能部品の新規拡販により増収

2025年3月期 通期施策

- 日系シールメーカーへの販売増加
- 日本で採用されたシール・機能部品の海外への横展開



Daily Life & Healthcare

デイリーライフ & ヘルスケア



医療用 (PVC)

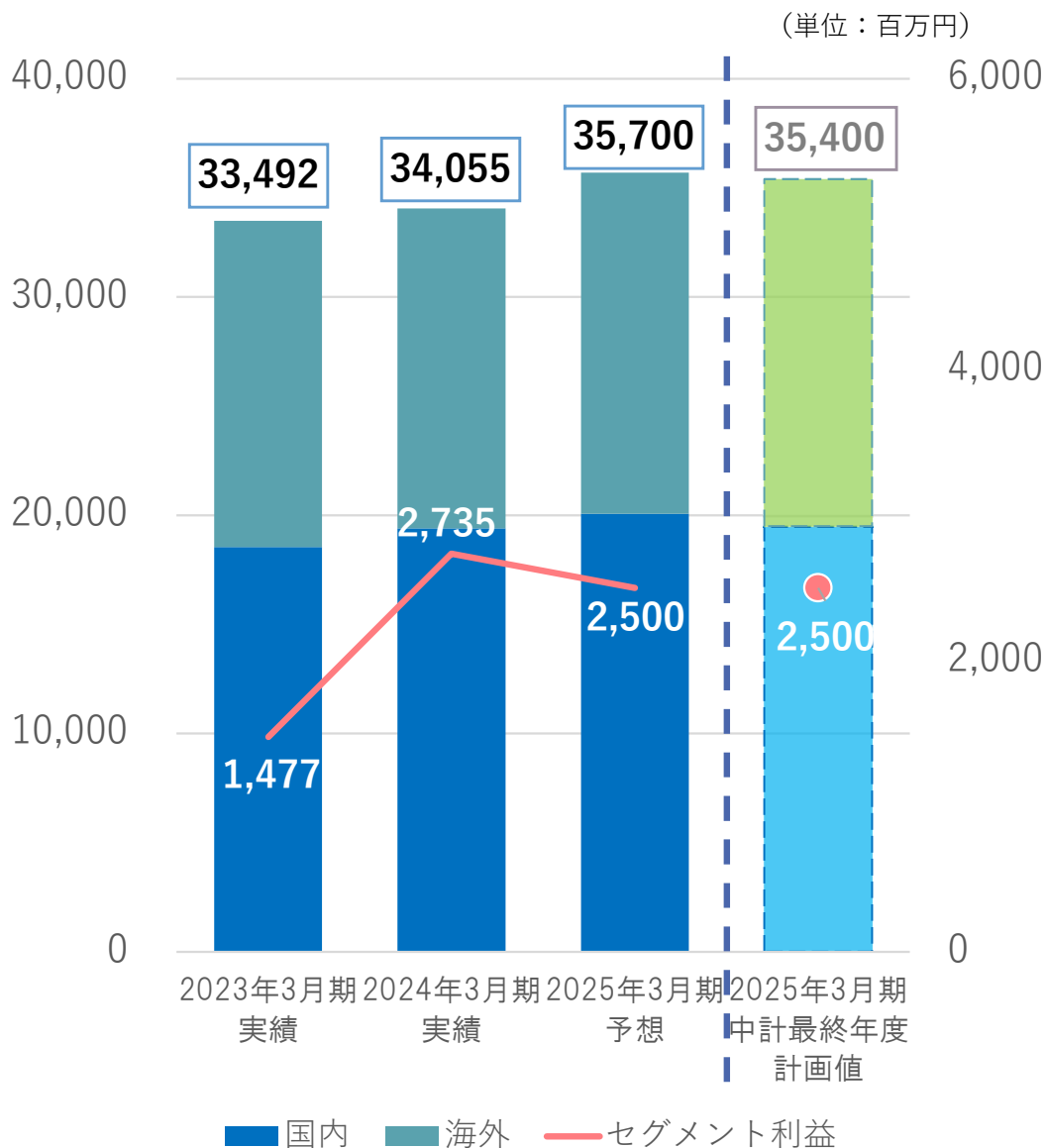


ゴム代替

Daily Life & Healthcare



| 2.セグメント別概況



2024年3月期 通期実績

563百万円 増収 (+1.7%)
1,258百万円 増益 (+85.1%)

- 国内では、生活資材向けエラストマーコンパウンドの販売が減少したものの、小巻ラップ製品の販売が好調に推移し、増収
- 海外では、タイ国での生活資材向け塩ビコンパウンドの販売が減少し、減収
- セグメント利益は、製品価格適正化と北米の塩ビコンパウンドおよび小巻ラップ製品の販売増加により増益

2025年3月期 業績予想

1,645百万円 増収 (+4.8%)
△235百万円 減益 (△8.6%)

- 国内では、生活資材向けエラストマーコンパウンドの販売増加により、増収
- 海外では、医療・生活資材向け塩ビコンパウンドの販売増加により、増収
- セグメント利益は、医療・生活資材向けコンパウンドの販売増加は見込むものの、食品包材における原料価格上昇により減益

Daily Life & Healthcare

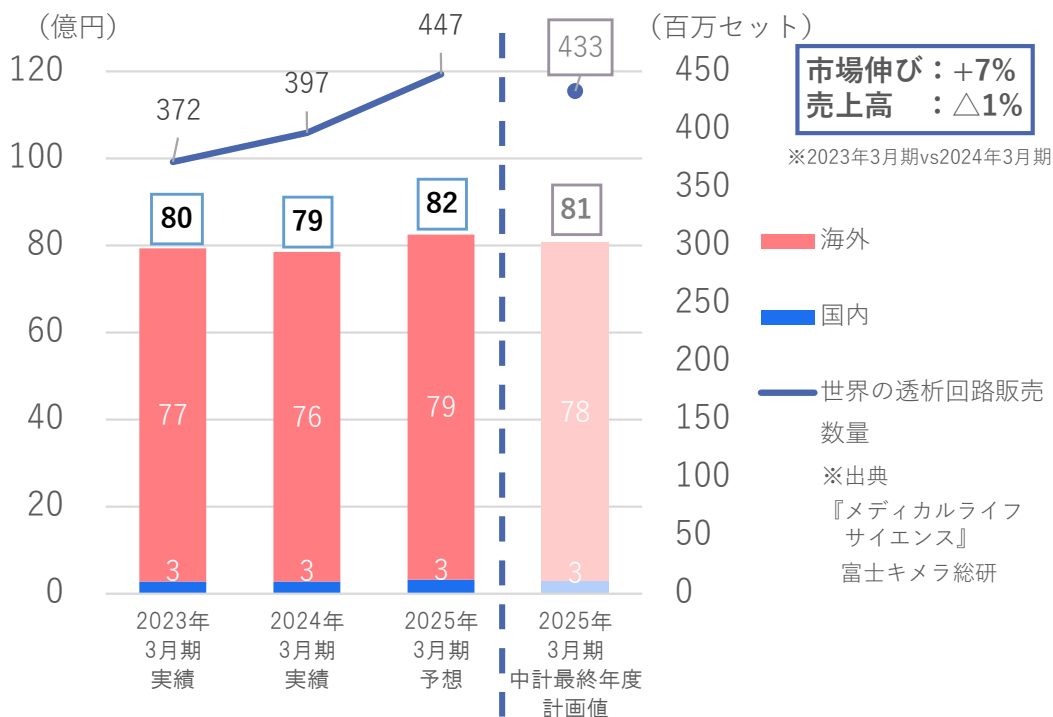


| 2.セグメント別概況



重点分野① 医療用(PVC)

透析回路の販売数量と当社医療用PVCコンパウンド売上高



2024年3月期 通期実績

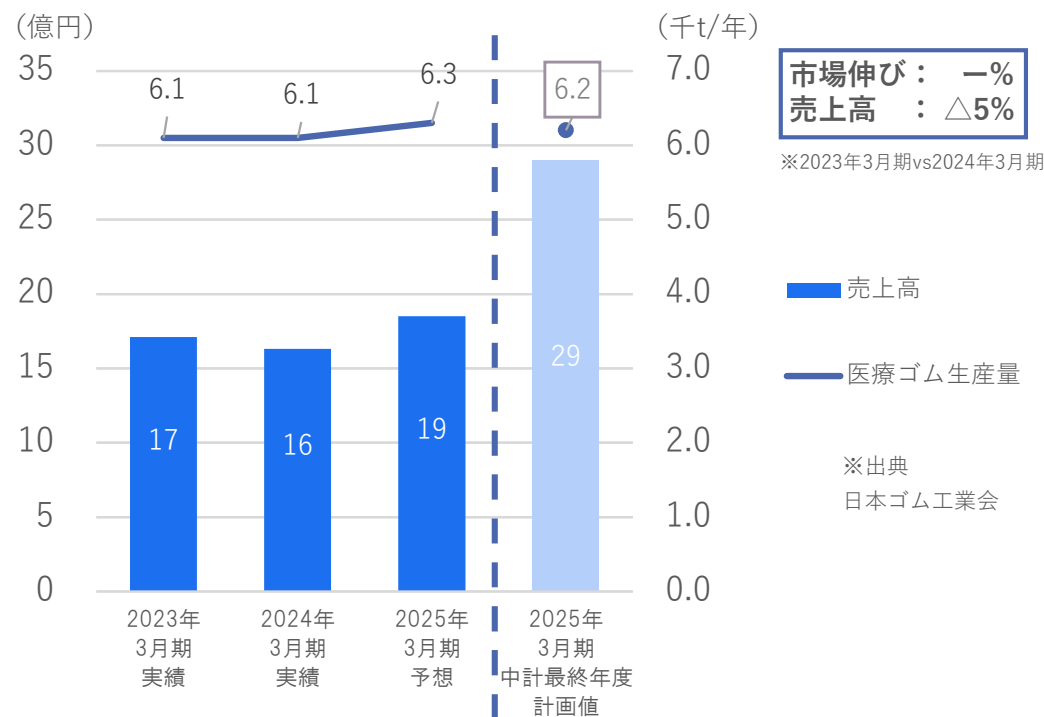
- ASEANにおける日系顧客向け医療用PVCコンパウンドの販売は増加したものの、製品価格の低下により減収

2025年3月期 通期施策

- 日系顧客の日本および北米市場向け透析回路材の拡販

重点分野② ゴム代替

国内医療ゴム生産量と当社ゴム代替コンパウンド売上高



2024年3月期 通期実績

- 食品、生活・産業資材向けエラストマーコンパウンドの販売減少により、減収

2025年3月期 通期施策

- 国内では、医療用栓体、生活資材向けエラストマーコンパウンドの販売増加
- 海外では、ASEANにおいて生活・産業資材向けエラストマーコンパウンドの顧客承認取得

Electronics

エレクトロニクス



電力・産業電線

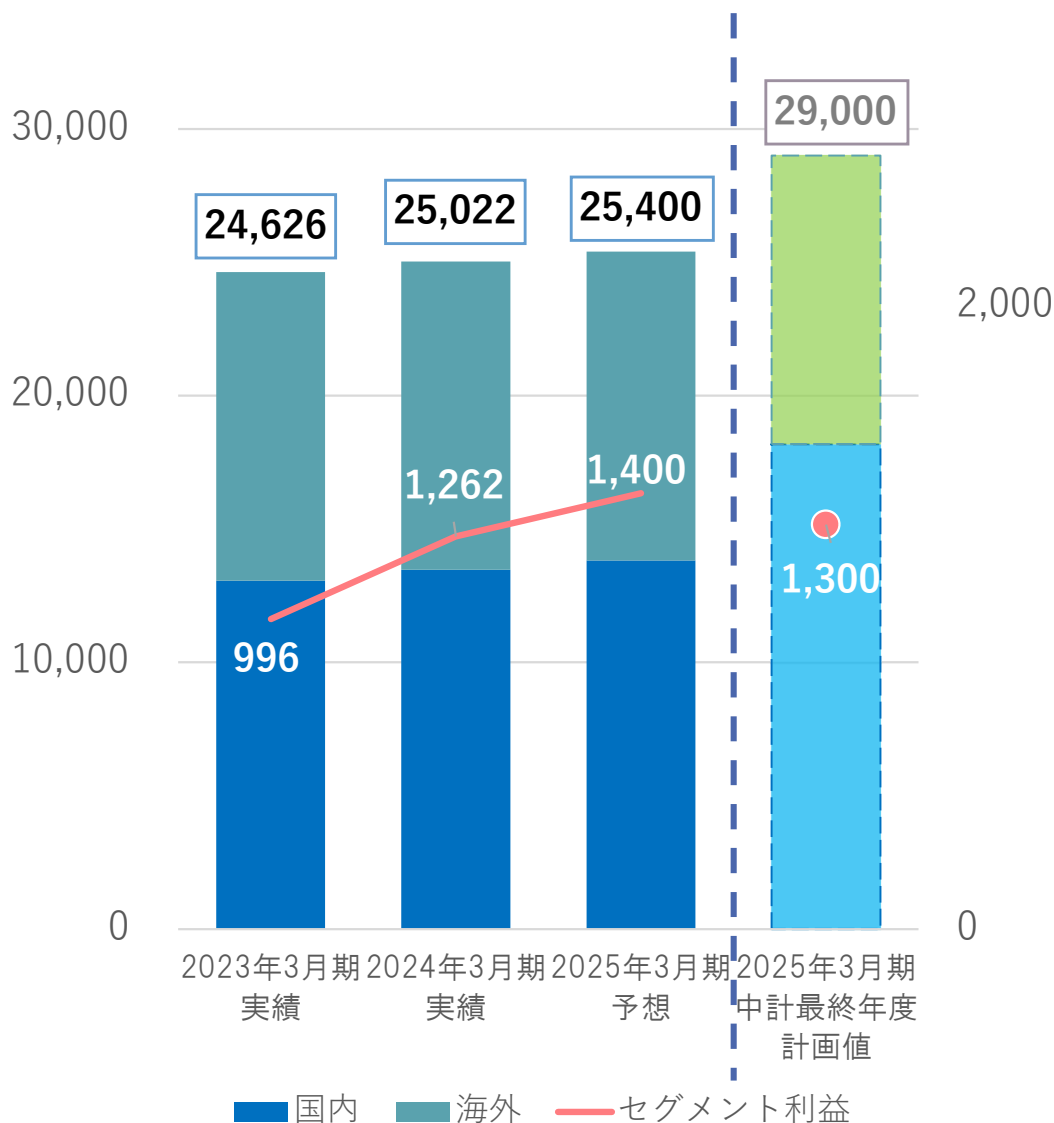


情報通信



光学フィルム

(単位：百万円)



2024年3月期 通期実績

396百万円 増収 (+1.6%)
266百万円 増益 (+26.7%)

- 国内では、工作機械電線向け塩ビコンパウンドの販売が減少したものの、半導体市場向けダイシングフィルム等の機能性フィルムの拡販が進み、増収
- 海外では、インドネシア国での塩ビコンパウンドの販売が増加したものの、中国および米国市場での塩ビコンパウンドの販売が減少し、減収
- セグメント利益は、インドネシア国の塩ビコンパウンドの販売増加と機能性フィルムの拡販により、増益

2025年3月期 業績予想

378百万円 増収 (+1.5%)
138百万円 増益 (+10.9%)

- 国内では、ロボットFA市場、情報通信市場向け塩ビコンパウンドの販売増加を見込み、増収
- 海外では、米国・中国市場向け塩ビコンパウンドの販売増加および機能性フィルムの拡販を見込み、増収
- セグメント利益は、販売増加および拡販により、増益

Electronics



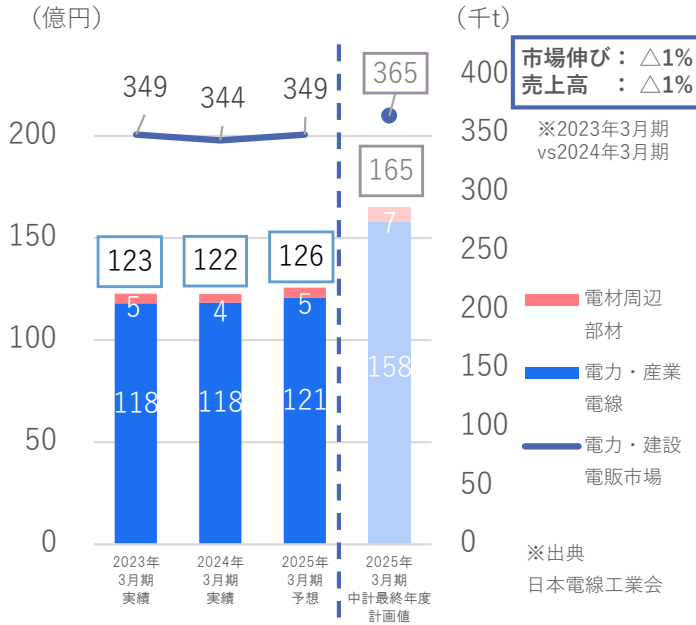
ELECTRONICS

| 2.セグメント別概況



重点分野① 電力・産業電線

国内の電力・建設電販市場向け電線銅量と当社コンパウンド売上高 (億円)



2024年3月期 通期実績

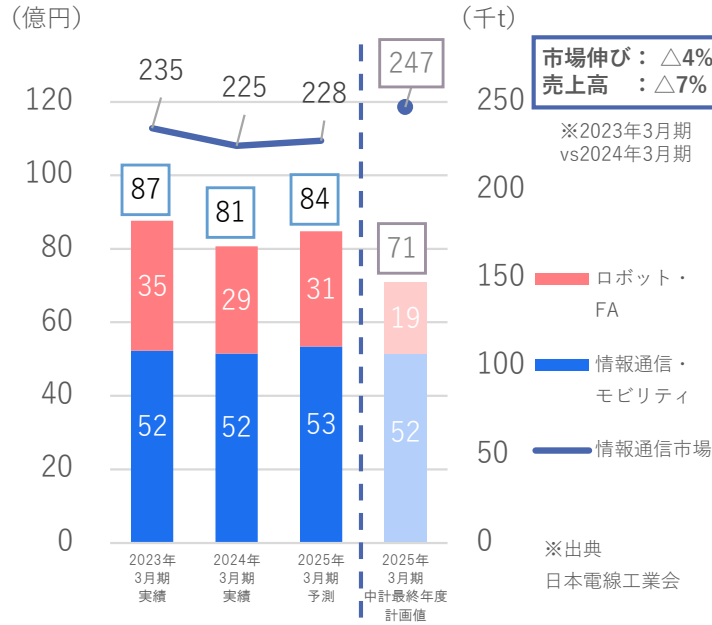
- 国内では、市場が弱い中主要顧客への販売を進め前年並み
- 海外では、米国・タイ国市場向けの販売が減少したもののインドネシア国市場向けで販売が増加し前年並み

2025年3月期 通期施策

- 国内では、建設電販市場向けコンパウンドを拡販
- 海外では、米国・ASEANの電力・産業電線向けコンパウンドを拡販

重点分野② 情報通信

国内の情報通信市場向け電線銅量と当社コンパウンド売上高 (億円)



2024年3月期 通期実績

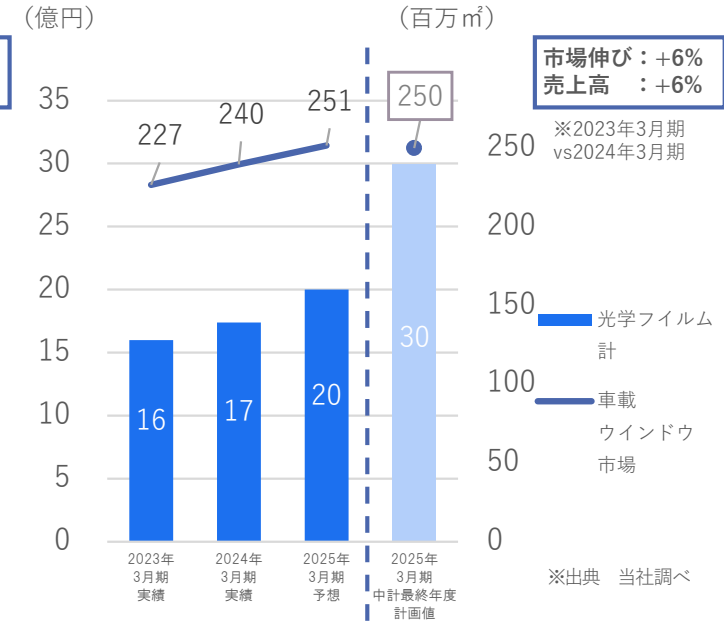
- 国内では、EV用充電ケーブル材の北米輸出向けに拡販するも、情報通信市場低迷により前年並み
- 海外では、中国のロボット/FA市場低迷により販売減少

2025年3月期 通期施策

- EV用充電ケーブル材のグローバルでの拡販
- 国内及び中国におけるロボットFA市場、情報通信市場への拡販

重点分野③ 光学フィルム

車載用遮熱フィルム需要と当社光学用フィルム売上高 (億円)



2024年3月期 通期実績

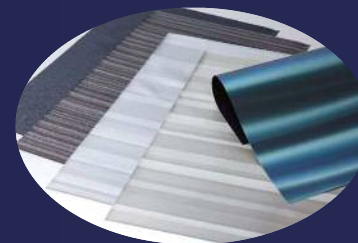
- 半導体用フィルムは、市況回復による増加および拡販により、増収
- 車載用遮熱フィルムの海外での販売は前年並み

2025年3月期 通期施策

- 半導体用フィルムは新規開発品の販売開始と海外向けの拡販
- 車載用遮熱フィルムは、新規開発品の販売開始

Building & Construction

ビルディング&コンストラクション



建装用フィルム



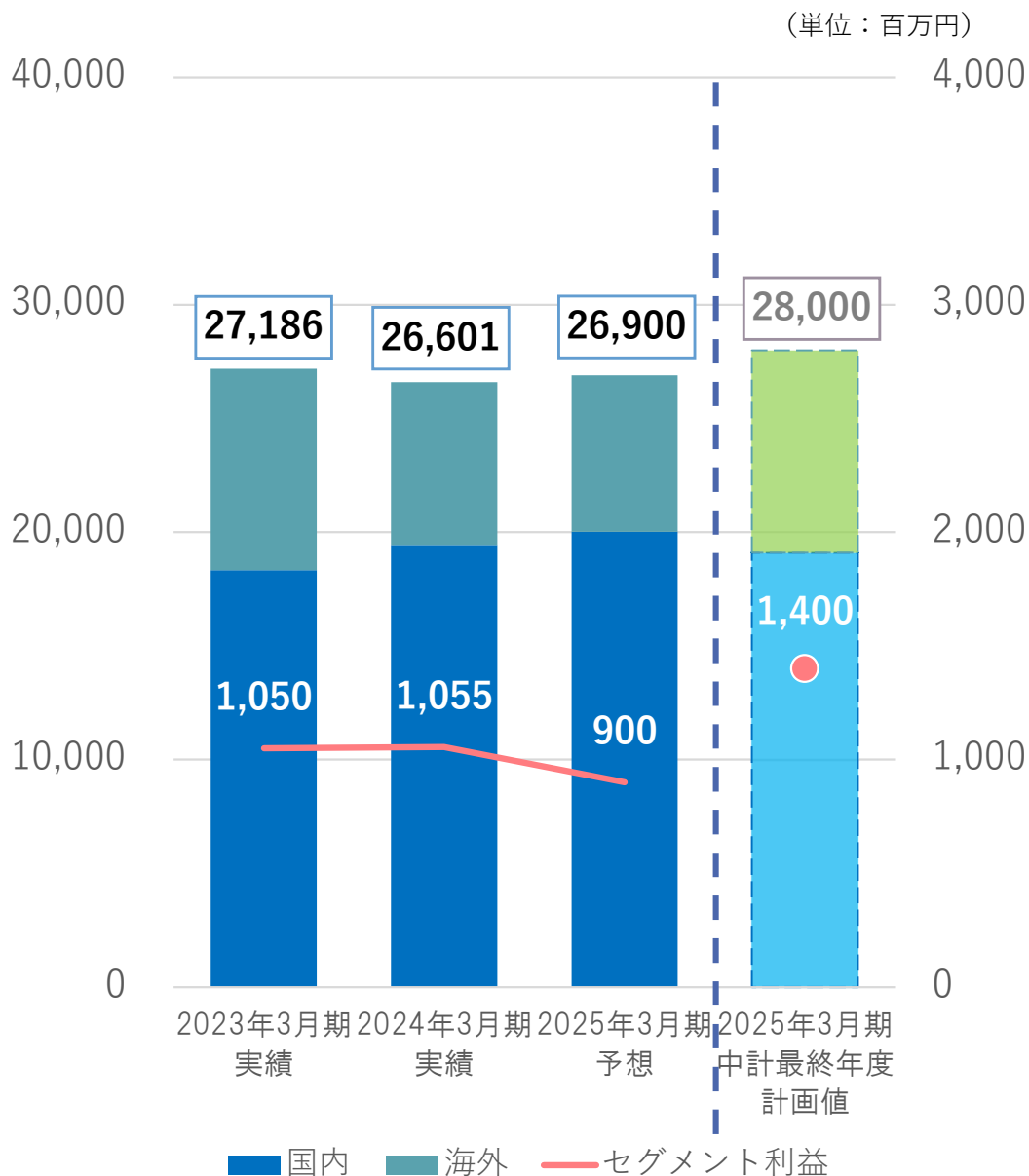
住宅・建築資材



Building & Construction



2.セグメント別概況



2024年3月期 通期実績

△585百万円 減収 (△2.2%)
5百万円 増益 (+0.4%)

- 国内では、非住宅市場向けフィルムおよび、「住宅省エネキャンペーン」による樹脂サッシ用塩ビコンパウンドの販売増加により、増収
- 海外では、米国の建材市場向け塩ビコンパウンドの販売が減少し、減収
- セグメント利益は、国内の販売が増加したものの、海外の建材市場向け塩ビコンパウンドの販売が減少し、前年並み

2025年3月期 業績予想

299百万円 増収 (+1.1%)
△155百万円 減益 (△14.7%)

- 国内では、「住宅省エネキャンペーン」による樹脂サッシ用塩ビコンパウンドの販売増加により、増収
- 海外では、米国での住宅・建築資材向け塩ビコンパウンドの販売減少により、減収
- セグメント利益は、建装用フィルムの収益性悪化により、減益

Building & Construction

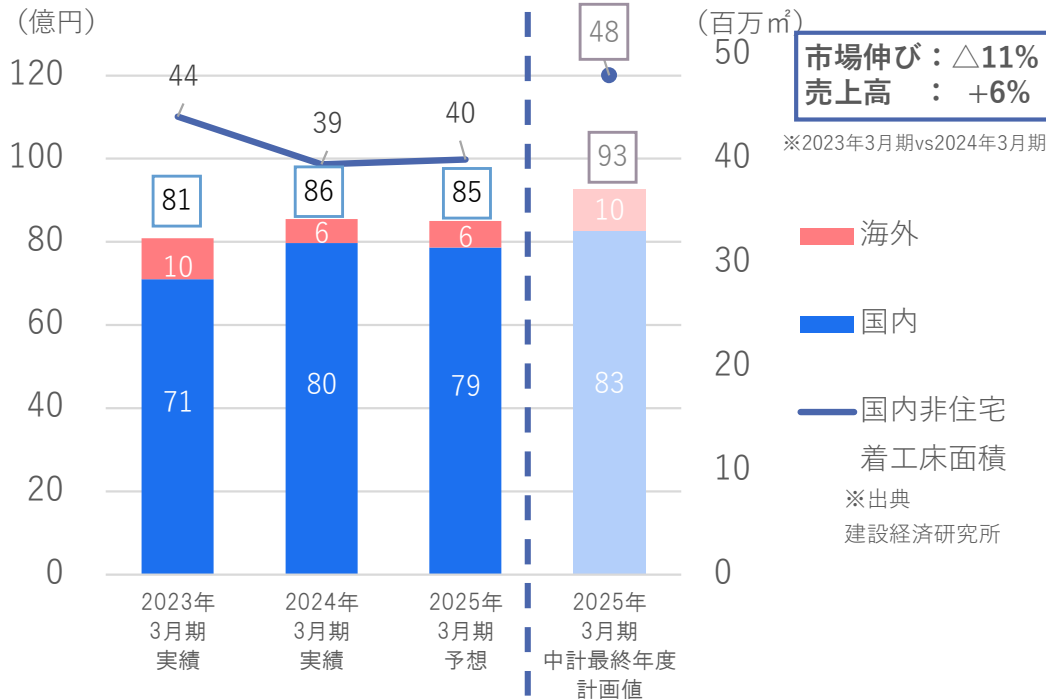


2.セグメント別概況



重点分野① 建築用フィルム

国内非住宅着工床面積と当社建築用フィルム売上高



2024年3月期 通期実績

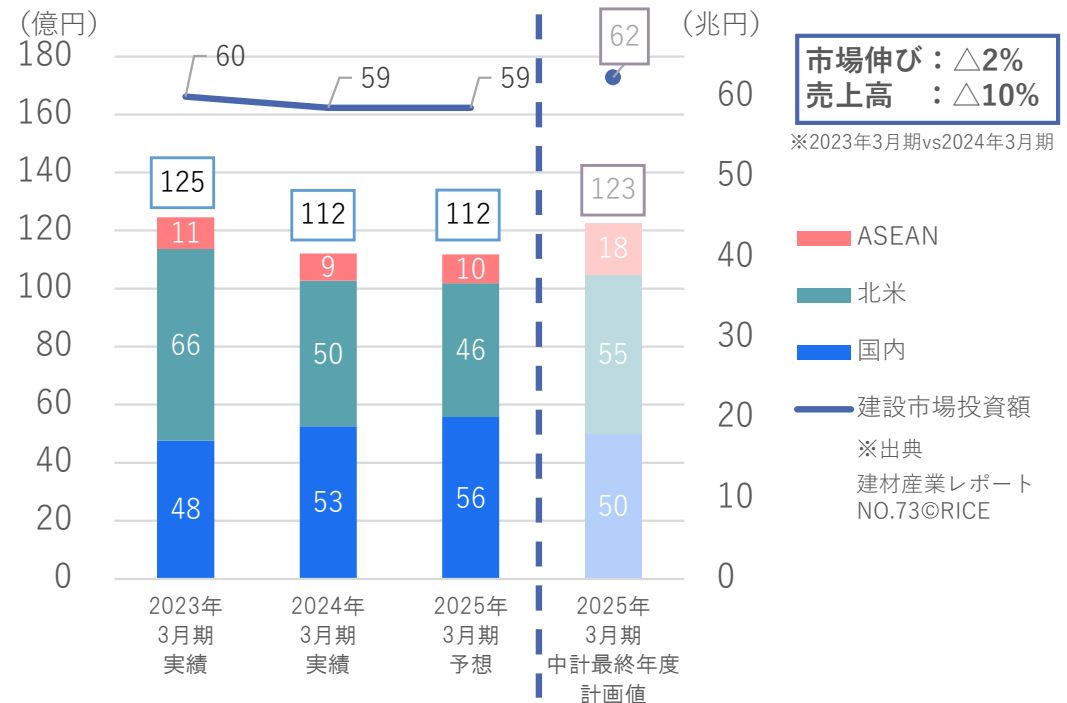
- 国内では、市場が低調に推移したものの主要顧客への販売が増加
- 海外では、北米での販売が減少し、減収

2025年3月期 通期施策

- 国内では、市場が低調に推移する中、外装用途へ拡販
- 海外では、北米市場におけるメラミン化粧板とのマッチング案件の早期実績化

重点分野② 住宅・建築資材

建設市場投資額と当社住宅・建築資材向けコンパウンド売上高



2024年3月期 通期実績

- 国内では、「住宅省エネキャンペーン」により、樹脂サッシ用塩ビコンパウンドの販売が増加
- 海外では、米国の市況低迷による販売減と製品価格の低下により、減収

2025年3月期 通期施策

- 国内では、24年度の「住宅省エネキャンペーン」による樹脂サッシ用塩ビコンパウンド需要の着実な取込み
- 海外では、米国の住宅市況が低調に推移するものの、建築・建装部材用塩ビコンパウンドの既存顧客への販売増加を図る



3.中長期的取り組み

1.決算概要

2.セグメント別概況

3.中長期的取り組み

中長期的にありたい姿 ・中期経営計画

| 3.中長期的取り組み



- リケンテクノスグループのミッションに基づき長期ビジョンを策定
- 長期ビジョンの実現に向け2022年度より3ヵ年中期経営計画を始動

リケンテクノスの
強み/ビジネスモデル

- グローバル展開する優良顧客に対して、お客様の望むものを届ける力
- 高い技術力
 - 処方設計技術
 - 混練技術
 - カレンダー製膜技術

リケンテクノスを取り巻く
(中長期の)環境

- 脱プラの動き
- 環境意識の高まり
- デジタル化の潮流
- EV化の進展
- 国内市場の縮小
- アジアの成長

ミッション
(=存在意義)

私たちは科学の力で豊かさ、安心、快適を創り出す
チャレンジメーカーです。
独創的で卓越した樹脂素材の配合加工技術で、
企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続けます。

長期ビジョン

すべての生活空間に快適さを提供する
リーディングカンパニーを目指して

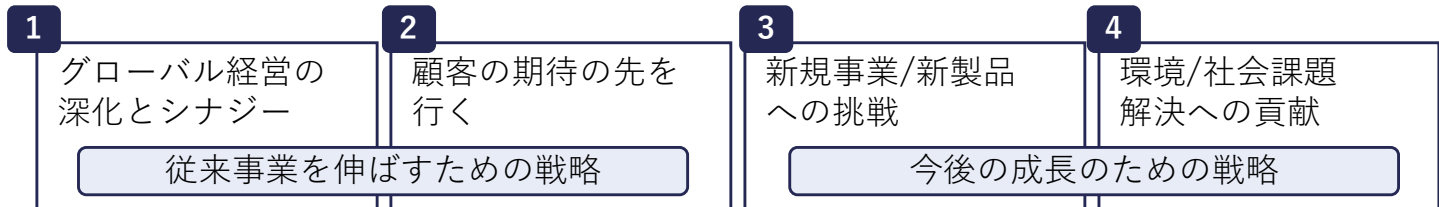
中期経営計画

経営方針



Challenge Now
for Change New 2024
変革への挑戦

中期経営計画の4つの基本戦略



戦略1～4を支える戦略/施策

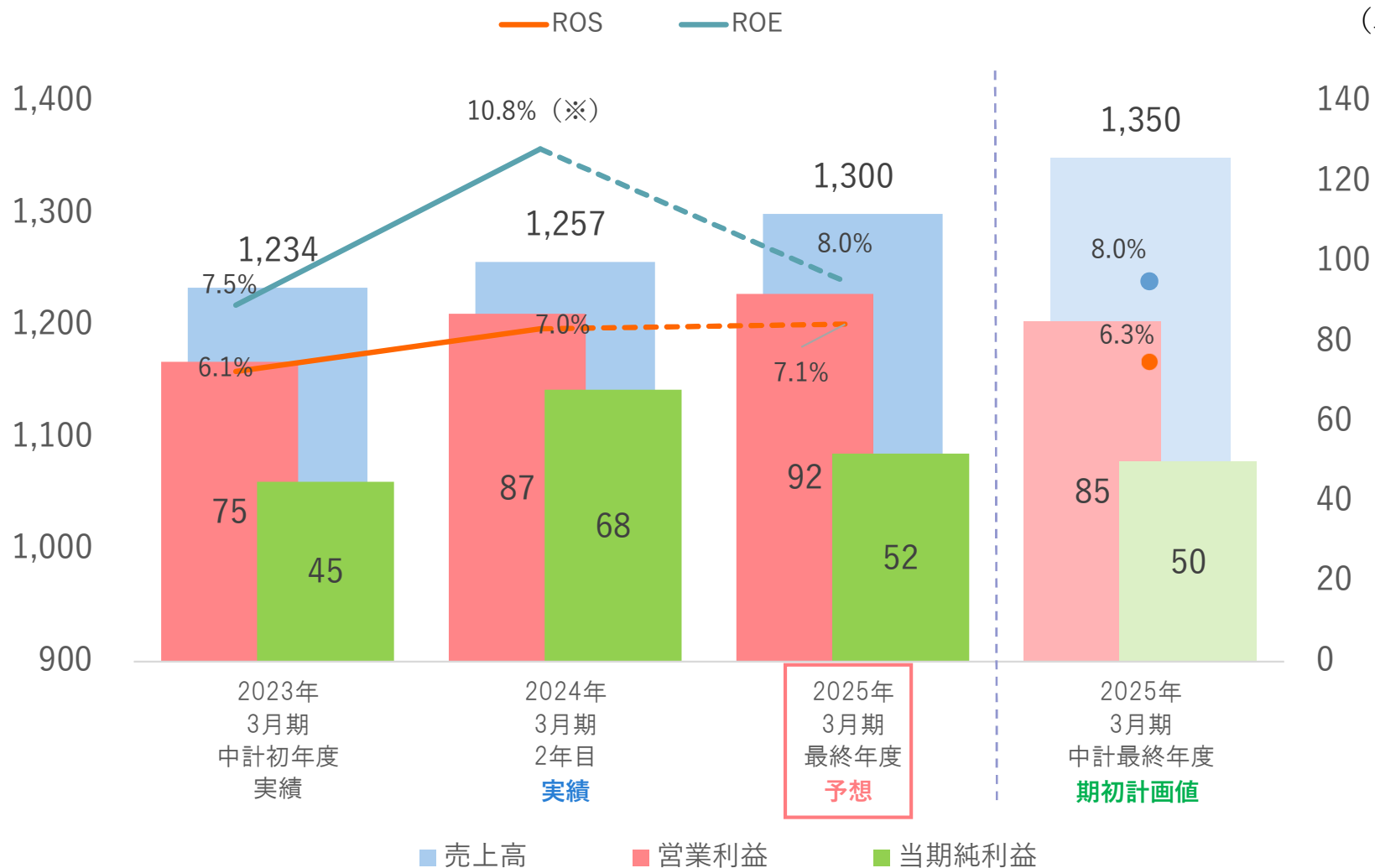
設備投資/製造 DX投資 人材投資 知財(研究開発)投資 ガバナンス

3カ年中期経営計画（計数計画）

| 3.中長期的取り組み



(単位：億円)



※2024年3月期のROEは、政策保有株式の売却益を含む

中計計数策定の前提条件

2025年3月期計画 ナフサ価格：61千円/KL 為替：114円/USD

3ヵ年中期経営計画 (2024年3月期実績) | 3.中長期的取り組み



戦略①グローバル経営の深化とシナジー

- グローバル営業/製造会議を通じた情報共有・改善策の早期立案および人材のレベルアップを実現
- ASEANシナジー戦略の推進
- タイ拠点新工場/新ライン稼働開始
ベトナム拠点新工場建築開始
北米拠点新ライン増設工事開始
- 三重工場新規エラストマーライン増設に着手
- 次期グローバル基幹システム導入に向けたPJ推進

戦略②顧客の期待の先を行く

- 主要顧客との技術交流会を実施し、顧客の潜在ニーズを発掘
- SFA/CRMによる顧客情報の一元化実現
- 上期本格運用を開始したマテリアルズ・インフォマティクスの活用による開発の進展
- ゴム代替TPVコンパウンドの次世代生産パイロットライン稼働開始により顧客提案のスピードアップ

戦略③新規事業／新製品への挑戦

- 新規事業開発準備室によるテーマ探索の推進と絞り込みの開始
- 産学連携、産産連携の更なる推進
(現在9研究機関と共同研究推進中)
- アレル物質低減タイプ「リケガード®A」、加硫ゴム代替TPV、リサイクル硬質塩ビ用改質材を開発
- 知財戦略に基づく新製品開発テーマの抽出と提言

戦略④環境／社会課題解決への貢献

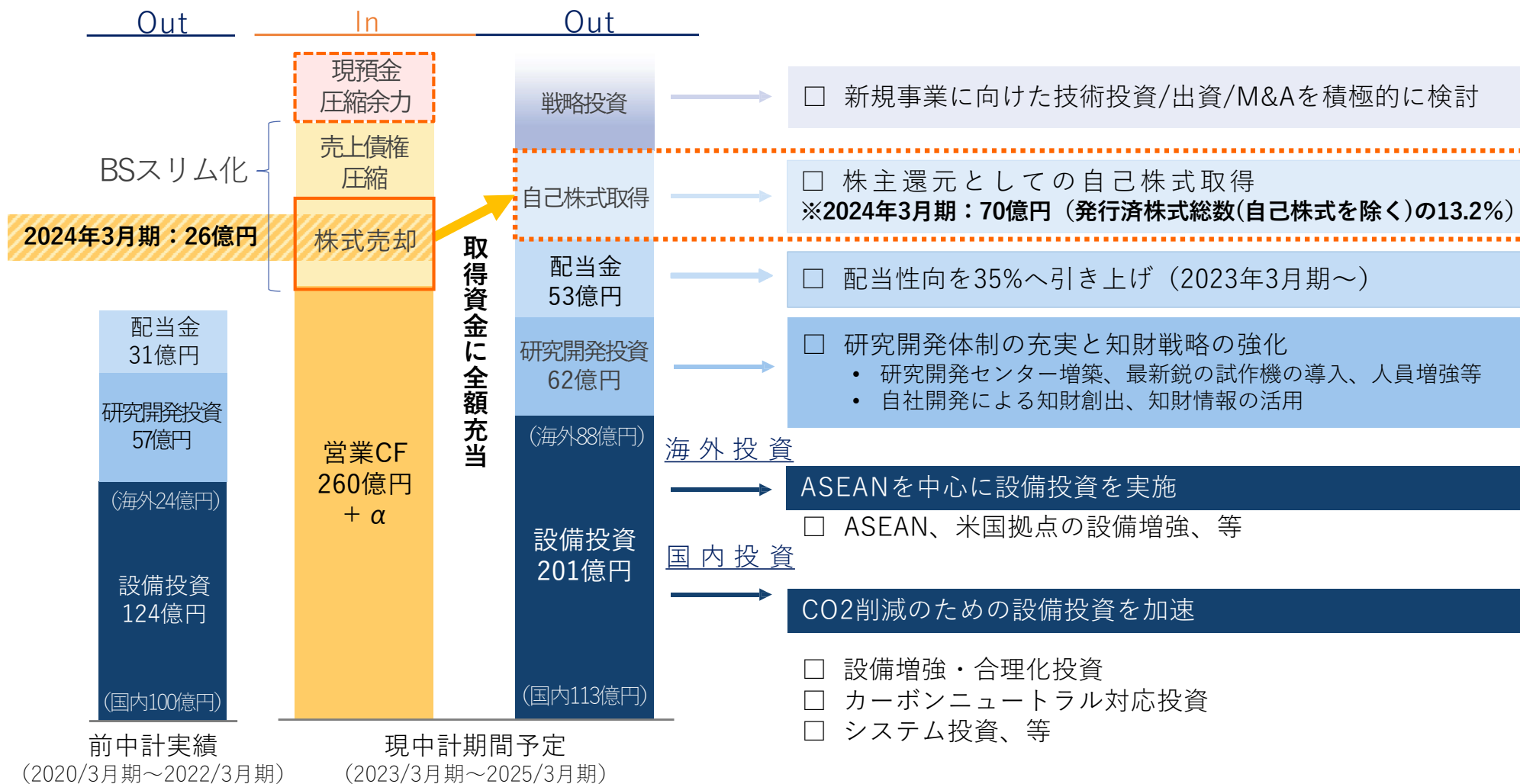
- マテリアリティ／KPIの特定
- インターナルカーボンプライシング制度導入
- 環境対応製品の開発・拡販
 - ▷RIKEBIO®シリーズの拡充
 - ▷リサイクル硬質塩ビ用改質材の開発
 - ▷リケンラップ® ボタニカル販売開始
- 女性活躍推進PJによる経営への提言
- リケンテクノスグループ人権方針の策定

中期経営計画における財務戦略

3.中長期的取り組み



➤ 成長投資を軸としたキャッシュアロケーションの実現を目指す



投資（実績と予測）

| 3.中長期的取り組み



設備投資/システム投資

3カ年中期経営計画（当初計画値）：195億円

(単位：億円)	主要案件	総額	海外比率		減価償却費	
			国内	海外		
2023年3月期 実績	ASEANにおける設備増設 国内設備増強 国内外合理化投資	47	33	14	30%	31
2024年3月期 実績	ASEAN・米国における設備増設 国内設備増設・増強 国内外カーボンニュートラル対応 国内外合理化投資 国内外システム投資	64	32	32	50%	34
2025年3月期 予測	ASEAN・米国における設備増設 国内設備増設・増強 国内外カーボンニュートラル対応 国内外合理化投資 国内外システム投資	90	48	42	47%	35
合計		201	113	88	44%	100

主な設備投資

| 3.中長期的取り組み



 **RIKEN VIETNAM CO., LTD.**
塩ビコンパウンド生産設備増設

新工場建屋、新ライン、
倉庫増設

《進捗》
✓ 2024年11月 稼働予定
✓ 投資総額：約15億円



 **RIKEN ELASTOMERS CORPORATION**
塩ビコンパウンド生産設備増設

既存建屋に新ライン増設

《進捗》
✓ 2024年12月 稼働予定
✓ 投資総額：約15億円



 **リケンテクノス（三重工場）**
熱可塑性エラストマーコンパウンド
生産設備増設

既存建屋に新ライン増設

《進捗》
✓ 2025年3Q 稼働予定
✓ 投資総額：約10億円



 **RIKEN (THAILAND) CO., LTD**
太陽光発電導入

太陽光発電の導入

《進捗》
✓ 2025年1Q 稼働予定
✓ 投資総額：約4億円



合理化投資

- ✓ タイ国 自動化装置導入
- ✓ 国内 食品包材製造設備導入
- ✓ 省エネに関する投資（ボイラー、変圧器等）
- ✓ 投資金額：約6億円（2025年3月期）

DX投資

- ✓ IoT投資（センシング・RFID）
- ✓ 次期グローバル基幹システム構想策定
- ✓ 米子会社のグループ基幹システム刷新・統合
- ✓ 投資金額：約10億円（2025年3月期）

研究開発の実績

新製品開発・研究の取り組み

- **加硫ゴム代替TPV（動的架橋熱可塑性エラストマー）の新規開発**
 - ・ マテリアルズ・インフォマティクス（MI）の活用による加硫ゴム代替TPVの処方設計に係わる開発スピード向上
 - ・ セミコマーシャルプラントの稼働開始により、スケールアップ試験等の開発が進捗
 - ・ ブチルゴム、NBRなどの機能性ゴム代替、汎用ゴム代替TPVの新規開発
 - ・ ゴム代替シートとして開発コンパウンドのシート化まで展開

- **リケガード®新シリーズ アレル物質低減タイプ「リケガード®A」を上市**
 - ・ ダニやスギ花粉などのアレル物質を使った効力評価試験において、アレル物質の活動が低減化されることを確認※
 - ・ 身の回りで使用されるフィルム・シート、不織布など様々な用途に提案可能

※ 試験結果につき、使用条件、環境条件によって効果は異なります。

- **高透明遮熱フィルムICE-μ®「RE」の開発**
 - ・ 熱線反射機能を追加し、電波透過性・透明性は維持しながら遮熱性能を現行品比10~20%向上
 - ・ 車載用ウィンドウフィルムとして、省エネ効果に貢献




リケ+ガード

オープンイノベーション

オープンイノベーションの取り組み

本体の研究開発体制に加え、外部研究機関との協働を推進
(現在 9 研究機関と共同研究を推進中)

➤ 取り組み例

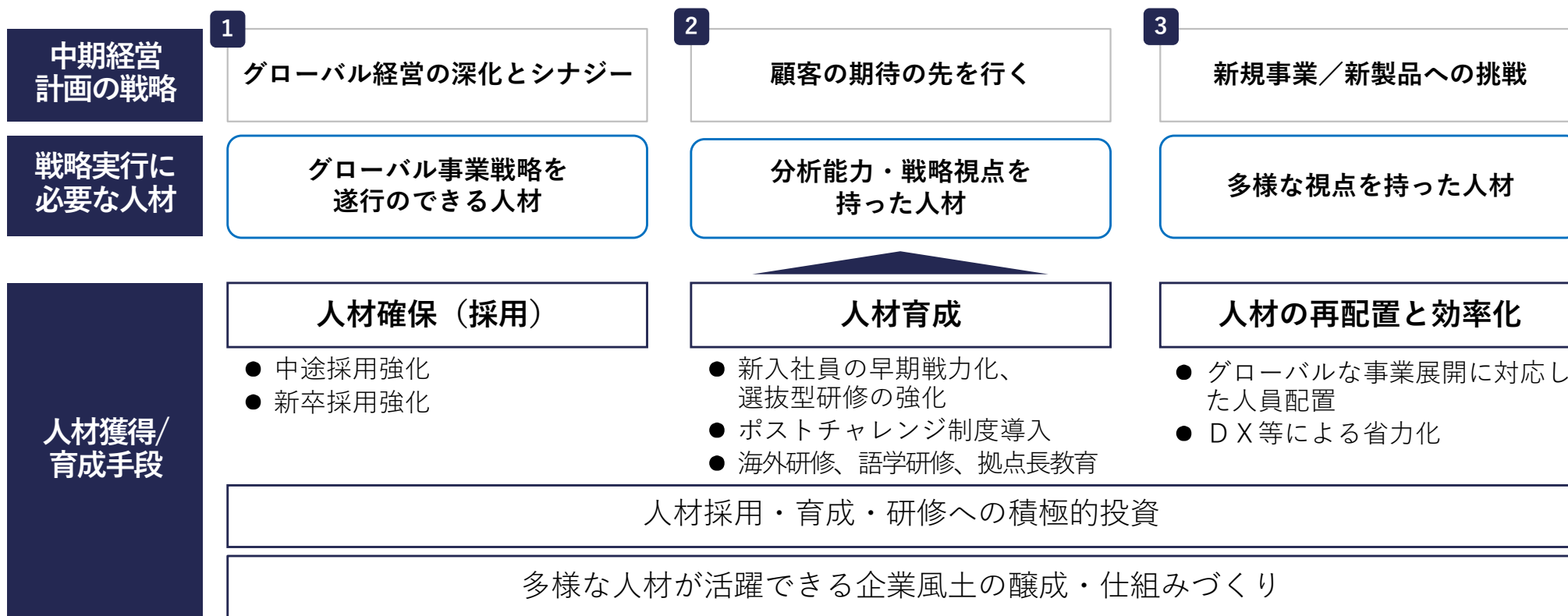
- 有機薄膜太陽電池 (Organic Photovoltaics : OPV※) の共同開発 (諏訪東京理科大学)

※OPVは、次世代の太陽電池で薄膜・軽量・色彩選択性・高透明性等の特徴を生かした様々な設計が期待される。当社の意匠性フィルム、機能性フィルムとの複合化も視野に入れた新しいOPVを開発

- 使用済PVC製品の有効利用法開発による循環型ビジネスモデルの構築を目指し、複数の大学と共同研究実施中



➤ 中期経営計画の達成に向け人材面においても、人材獲得・育成における取り組みを推進



人的資本に 関する目標

多様な人材の管理職登用の目標

(管理職における多様な人材の比率)

	(2024年3月末)	(2025年3月末目標)
● 女性	2.1%	7.0%
● 外国人	0.7%	3.0%
● 中途採用	29.8%	40.0%

2024年3月期 人的資本に関する取り組み

- 女性活躍推進プロジェクト実施
- ジョブリターン制度導入(2024年4月～)
- 従業員賞与原資の配分比率の増加
- 従業員投資会奨励金の増額

人権に係わる取り組み

- **全従業員への人権・コンプライアンス研修の実施**
 - ・当社単体、国内グループ会社の従業員を対象に「人権・コンプライアンス研修」を開催（2024年3月期受講率：100%）
- **仕入先への「ESGに関するアンケート調査」の実施**
 - ・当社仕入先への人権をはじめとするESGに関するアンケート調査を実施



気候変動への対応

- **CO₂排出量 指標と目標** (t-CO₂)

単体 (Scope1,2)	2030年目標	2019年度比46.2%削減 (24,139)
グループ (Scope1,2)	2050年目標	カーボンニュートラル (0)

- **実績**

		2023年3月期	2024年3月期 (t-CO ₂)
Scope1,2	単体	41,139	40,859
	グループ	86,220	83,566
Scope3*	グループ	935,410	集計中

*該当しないカテゴリーを除く当社グループの排出量を算出

- ・CDP質問書（気候変動）回答（Bスコア）

- **カーボンニュートラルに向けた取り組み**

- ・省エネ設備への更新（ボイラー、変圧器等）
- ・インターナルカーボンプライシング制度の導入
社内炭素価格：15,000円/t-CO₂
- ・海外工場（RT）敷地への太陽光発電導入決定



資本政策(配当・自己株式取得)

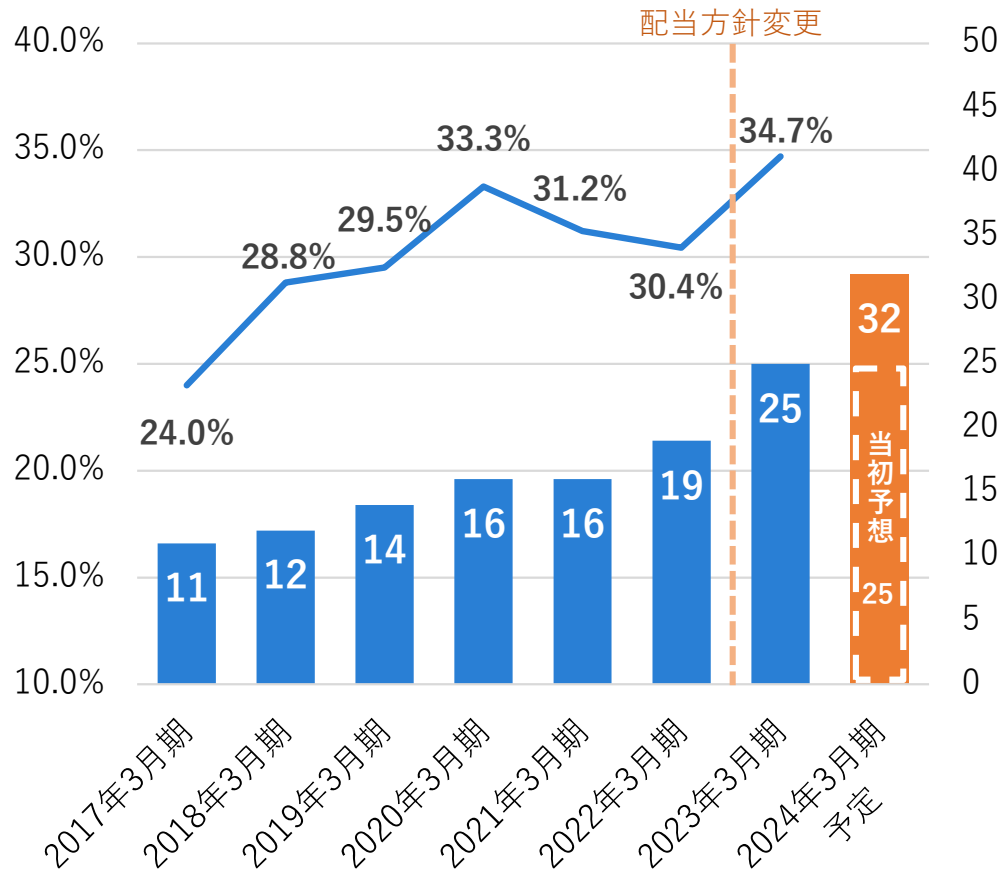
| 3.中長期的取り組み



➤ 財務状況と事業のバランスも考慮しつつ安定的な配当を行う方針

➤ 2023年3月期より連結配当性向を35%程度へ引き上げ、2024年3月期も増配を予定

配当性向と配当額推移



配当方針

- 連結配当性向35%程度を一つの目途とした上で、今後の事業投資・自己資本の充実等も勘案し、安定的な配当を行う
※2023年3月期より連結配当性向30%から35%程度へ引き上げ

2024年3月期 配当見通し

- 前期25円 ⇒ **32円に7円の増配予定**
(期初予想比7円の上方修正)
- **連結配当性向は、28.0%**
※配当予想は、投資有価証券売却益の影響額を除いた1株当たり当期純利益で算定
(売却額は自己株式取得資金に全額充当)
- **総還元性向は、129.1%**

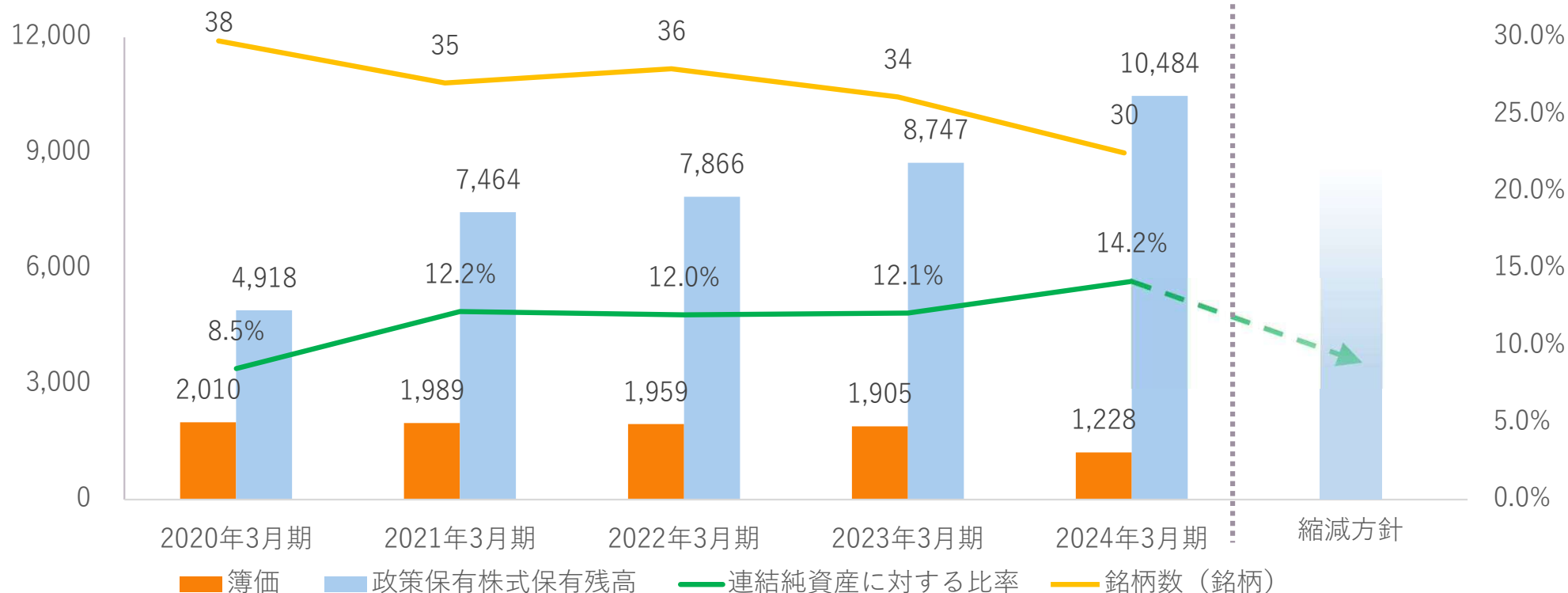
2024年3月期 自己株式の取得/消却

- **自己株式8,337,900株を取得 (発行済株式総数(自己株式を除く)の13.2%)**
- **取得した全株式を消却**

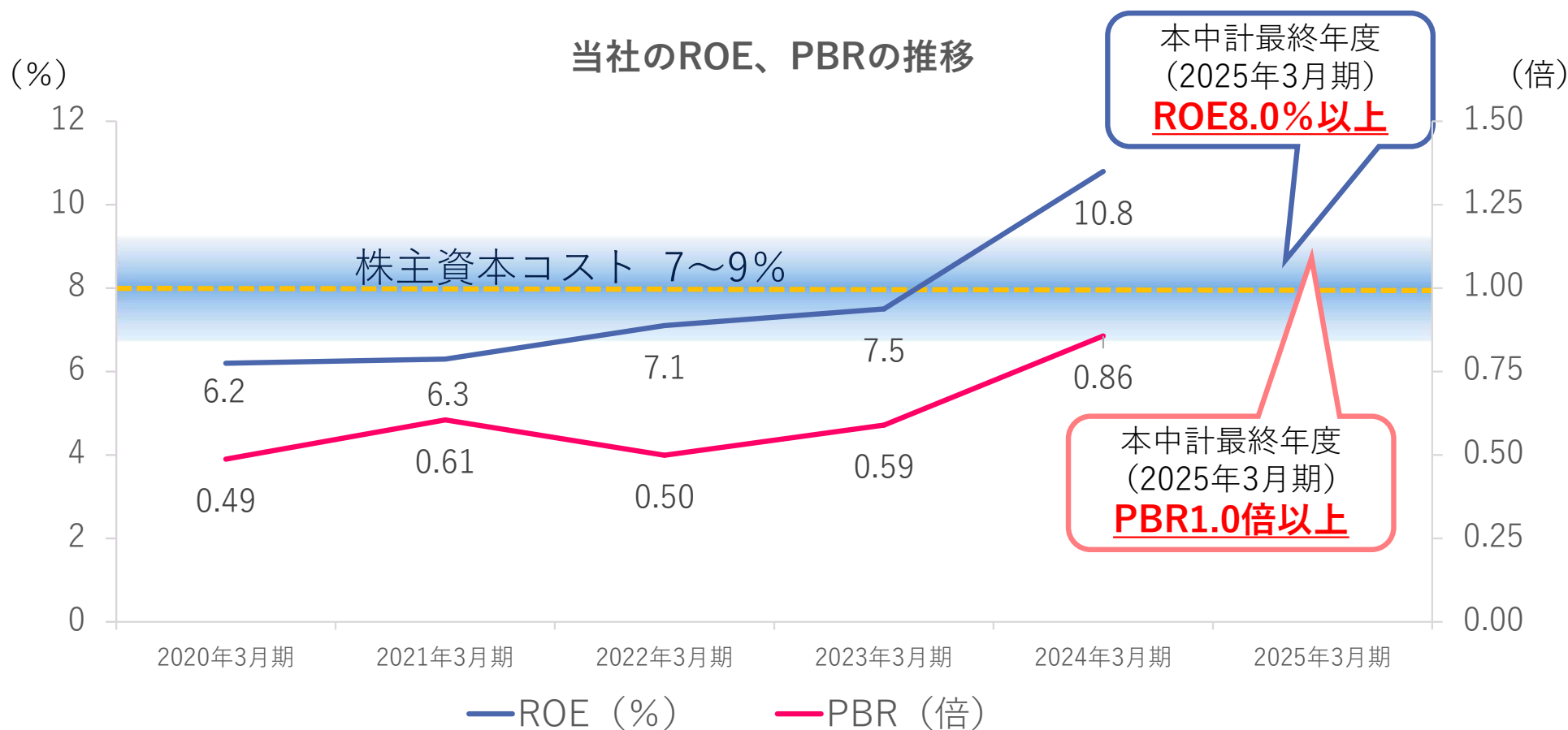
- 保有残高を連結純資産の10%未満にする方針のもと縮減を推進
- 34銘柄中、24銘柄の全部または一部を売却

政策保有株式の保有状況の推移

(金額：百万円)



- 各戦略を確実に実行することで、2025年3月期において **ROE8.0%、PBR1.0倍以上**の達成を目指す



ROIC	6.5%	6.2%	7.1%	8.0%	9.3%
WACC	6~8%				

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

お問い合わせ先

webmaster@rikentechnos.co.jp

経営企画部/経理部



会社概要



社名	リケンテクノス株式会社
設立年月日	1951年（昭和26年）3月30日
資本金	85億14百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 常盤和明
従業員数	連結1,904名 単体785名（2024年3月31日現在）
本社所在地	〒101-8336 東京都千代田区神田淡路町 二丁目101番地 ワテラスタワー



経営理念（リケンテクノス ウェイ）



創業当時から引き継いでいる「ベンチャー精神」こそ、リケンテクノスの強みであり、「リケンテクノスらしさ」です。
この「リケンテクノスらしさ」をもとに経営理念である「リケンテクノス ウェイ」は策定されました。
ミッションにある「チャレンジメーカー」という言葉は造語ですが、
製造業という意味でのメーカーの他に、挑戦して何かを創り出す人という意味もこめられています。
未来への飛躍のために、これからも挑戦し続けていきます。



ミッション “使命・存在価値”

私たちは科学の力で

豊かさ、安心、快適を創り出すチャレンジメーカーです。

独創的で卓越した、樹脂素材の配合加工技術で、

企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続けます。

コア・バリュー “基本的価値観”

信頼しあい貢献しあう 新しい価値を生み出す

常に挑戦し成長する 仕事を楽しみワクワクする

共に解決し共に喜ぶ

基本行動 “具体的な行動指針”

失敗を恐れず前向きにやってみる 主役になって仕事を楽しむ

信頼しあう仲間となって助け合う 大事に聴いて本気で話す

笑顔で出てきて笑顔で帰る 顧客の期待の先に行く

新しいことマニアになる プロなんだから自分を磨く

決めたところまで決めた時期まで

事業領域



▶ 合成樹脂加工に係わる総合的な技術をベースに「コンパウンド」、「フィルム」、「食品包材」の3つの主要製品を柱に各用途に応じた加工で幅広い産業に製品を供給、国内外で事業を展開しています

セグメント

主要製品	概要	トランス ポーション	デイリーライフ & ヘルスケア	エレクトロニクス	ビルディング & コンストラクション
コンパウンド	ベースの樹脂に添加剤を何種類か混ぜ合わせ、新しい性質を持たせた複合材料で、主に押出成形や射出成形に使われる素材。塩化ビニル樹脂をはじめ、熱可塑性エラストマー、難燃性・導電性高機能コンパウンドを開発、製造、販売	<ul style="list-style-type: none"> ●ワイヤーハーネス用コンパウンド ●窓枠用コンパウンド 	<ul style="list-style-type: none"> ●シリンジガasket用コンパウンド ●血液回路用コンパウンド 	●電力電線用コンパウンド	●断熱窓枠用コンパウンド
フィルム	配合した樹脂の特性に適した製法で高品質フィルム製膜を実施。また、複数のフィルムを貼り合わせたり、表面に塗料をコートすることにより、意匠性や機能性を付与したフィルム製品を開発、製造、販売	●ウィンドウ用フィルム RIVEX®(リベックス®)	●抗ウイルス・抗菌フィルム リケ・ガード	●半導体関連フィルム	●高級壁装用フィルム
食品包材	日本で初めて塩化ビニル樹脂のラップを開発したパイオニアとして、家庭用から業務用まで、食品包装用ラップの品質・性能を追求するとともに、食品や自動包装机などに適したラップを開発、製造、販売	●塩ビラップ	●ポタニカルラップ		

事業を通じた環境への貢献

- 従来事業の塩化ビニル、エラストマーにおいても「省エネルギー」や「省資源」、「リサイクル」などのテーマをもっています
- これら製品の拡販が環境保護に対する貢献につながります

樹脂	特徴	当社製品	拡販状況・方針
<p style="text-align: center; font-weight: bold;">塩化ビニル</p>	<p>■ 塩化ビニルの約60%は天然素材の「塩」に由来</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 耐久性・加工性・難燃性・耐候性など用途に応じた機能の付与が可能 ・ 資源エネルギー消費量は、石油からの炭化水素を主とする樹脂(ポリエチレンやポリプロピレン)が45.6～46.5MJ/kgであるのに対して、塩ビは21.3MJ/kgと他樹脂の半分以下*であり、負荷が少ない 	<p style="text-align: center;">塩ビ樹脂製内窓用サッシ 形成材料としてリサイクルが可能</p> 	<p>ZEH政策により、樹脂サッシは引き続き旺盛な需要が継続する見込みで、塩ビコンパウンドの拡販に注力する方針</p>
<p style="text-align: center; font-weight: bold;">エラストマー</p>	<p>■ 「ゴム特性」を有しながら、CO2排出量削減、省エネルギー化に貢献できる素材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熱可塑性エラストマーはリサイクル可能で、従来ゴムと比較して、成型時間も短いためCO2排出量を少なくできる ・ また素材の特徴として軽量なため、自動車の軽量化・燃費向上等の省エネルギー化に貢献する 	<p style="text-align: center;">耐油性ゴムと同等の機能を有する “高耐油 TPV ACTYMER®K”</p> 	<p>自動車の燃費向上や車体軽量化を目的とした素材転換、ゴム代替のトレンドは継続見込み、該当する機能部材の拡販に注力する方針</p>

*出典：塩ビ工業・環境協会HPより作成

グローバルネットワーク



- 製造会社
- 販売会社

- リケンテクノス株式会社
- 国内子会社

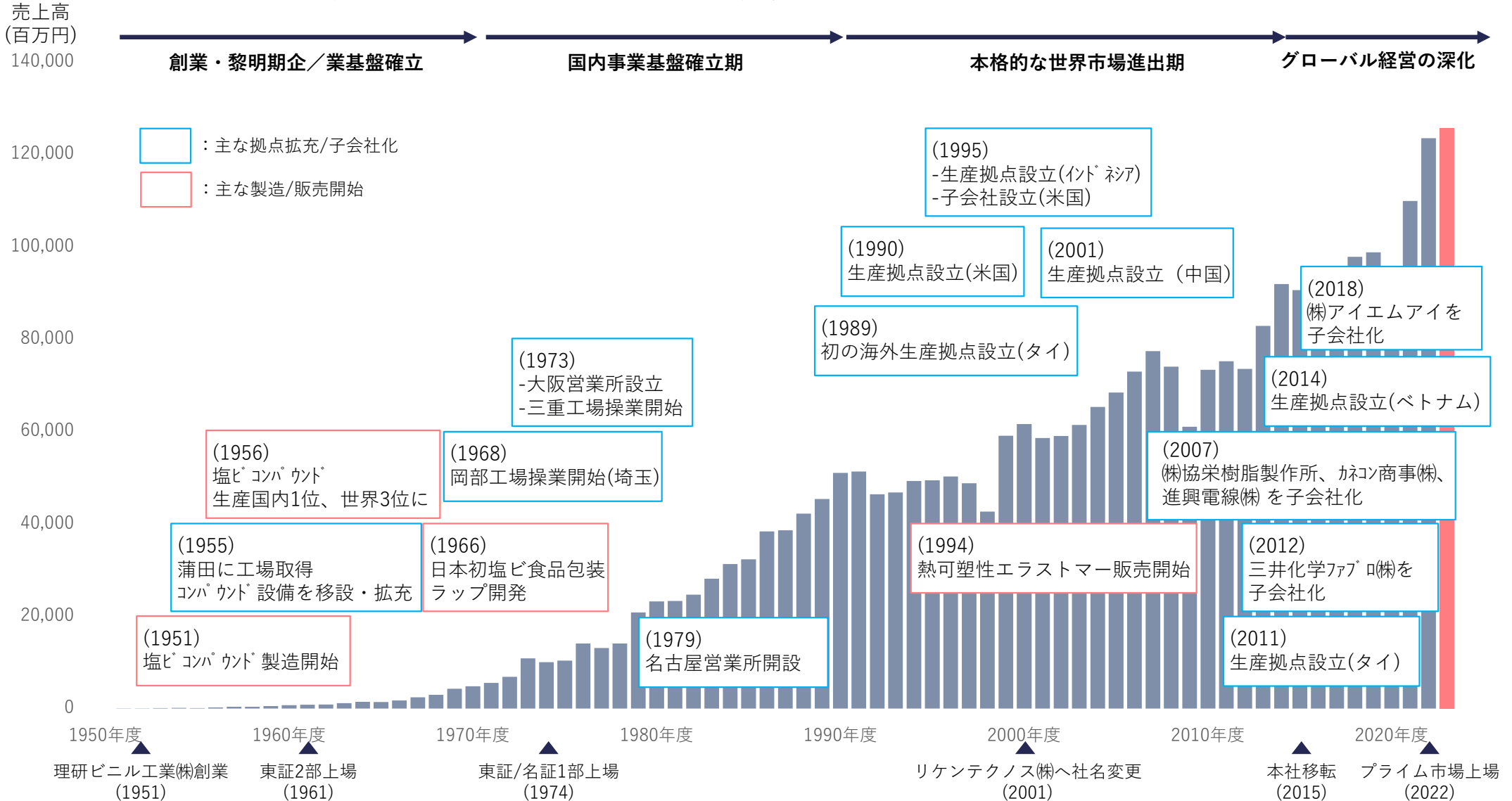
- リケンケーブルテクノロジー株式会社
- リケンケミカルプロダクツ株式会社
- 株式会社協栄樹脂製作所
- 株式会社アイエムアイ



価値創造のあゆみ



➤ 1951年の創業以来、国内・海外拠点を拡充させ、多くの製品を世に出し続けて参りました



*1999年度より連結決算開始に伴い連結売上高を記載